

平成24年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定内容

公益財団法人日本植物調節剤研究協会

平成24年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成25年9月12日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者33名、委託関係者34名ほか、計84名の参集を得て、除草剤24薬剤(108点)、及び

生育調節剤1薬剤(5点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成24年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤 (1) 小麦

注) アンダーラインは新たに判定された部分を示す。

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用基準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. BCH-081フロアブル ジフルフェニカン 8.4% フルフェナセト 33.6% [バイエル クロップサイエンス]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草、(イヌカワシレを含む)	茎葉兼土壌	播種後～小麦3葉期、イネ科雑草1葉期まで	60～80mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	・葉に白斑や黄化、褐変を生じる場合がある *SU抵抗性、ジニトロアニリン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	
		カスノコグサ	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	80mL 散布水量 100L				東北以南
		*抵抗性スズメノテッポウ							
2. BCH-109 細粒 ジフルフェニカン0.2% フルフェナセト0.6% [バイエルクロップサイエンス]	実・継 実	一年生雑草	土壌	播種後～小麦2葉期、イネ科雑草1葉期まで	4kg～5kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・葉に白斑や黄化、褐変を生じる場合がある *SU抵抗性、ジニトロアニリン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	
		カスノコグサ							
		*抵抗性スズメノテッポウ							・カスノコグサ、抵抗性スズメノテッポウに対する効果の確認
3. HPW-105 乳 トリフルアリン 33% IPC 11% [保土谷UPL、 タウ・ケミカル日本]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	300～400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・ツクサ科、カタツクサ科、キク科を除く	・カスノコグサ、抵抗性スズメノテッポウ、カラスムギ、ネズミムギに対する効果の確認
4. KUH-112 乳 ピロキサスルホン0.88% ベンチオカブ7.57% リニエロン:10.5% [クマイ化学工業]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	400～500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南		・散布水量70L/10aでの効果、葉害の確認 ・カスノコグサ、抵抗性スズメノテッポウ、カラスムギ、ネズミムギに対する効果の確認
5. KUH-112 細粒F ピロキサスルホン0.1% ベンチオカブ6.6% リニエロン:1.2% [クマイ化学工業]	継								・効果、葉害の確認 (東北以南)
6. MBH-075 乳 プロスルホカルブ 46% リニエロン 11.5% [丸和バイオケミカル]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	400～600mL 散布水量 50～100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・砂土では生育抑制を生じる場合がある *SU抵抗性、ジニトロアニリン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効 ・少量散布(50L/10a)の場合は専用ノズルを使用する。	
		カスノコグサ							
		*抵抗性スズメノテッポウ							

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	
7.MBH-127フロアブル 既知化合物A:16% 既知化合物B:9.4% (W/V) [丸和バイオケミカル]	継							・効果、葉害の確認 (東北以南)
8. NC-613乳 エスプロカルブ® 60% シフルフェニカン 1.5% [日産化学]	実 (従来どおり)	一年生雑草(イヌカツレを含む)	茎葉兼土壌	播種後～小麦2葉期、雑草発生始期まで	300～400mL 散布水量100L	全土壌(砂土を除く)	北海道	・葉に白斑を生じる場合がある *SU抵抗性、ジントロニン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効 ・イヌカツレが多発する圃場では高薬量で使用
		一年生雑草		播種後～小麦出芽前、雑草発生始期まで	300～500mL 散布水量100L			
		*抵抗性スズメノテッポウ		播種後～小麦出芽前、スズメノテッポウ発生始期まで				
		カズノコサ		播種後～小麦出芽前、カズノコサ発生始期まで	400～500mL 散布水量100L			
9. NH-007フロアブル グリホサートイソプロピルアミン塩30% ピラフルフェニカン 0.16% [日本農業]	実・継 実	一年生雑草	茎葉	耕起前、雑草生育期	400～600mL 散布水量100L	全土壌	全域	周辺作物に飛散しないように注意する。
				播種後出芽前、雑草生育期				
		多年生イネ科雑草	耕起前、雑草生育期	500～1000mL 散布水量100L	北海道			
10. SL-1201フロアブル 新規化合物:42.1% [石原バイオサイエンス]	継							・効果、葉害の確認 (東北以南)
11. SYJ-100乳 プロスホルカルブ® 78.4% [シンジエンタ ジャパン]	実・継	一年生雑草(イヌカツレを含む)	茎葉兼土壌	播種後～小麦2葉期、雑草発生始期まで	400～500mL 散布水量100L	全土壌(砂土を除く)	全域	・葉斑、黄化、縮葉などの症状がみられる場合がある ・北海道の小麦2～4葉期処理は初冬播き栽培で使用する。 ・東北以南の小麦2～4葉期処理は前処理剤との体系で使用。 *SU抵抗性、ジントロニン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効
				小麦2～4葉期、雑草発生始期まで				
		カズノコサ		播種後～小麦2葉期、カズノコサ発生始期まで		東北以南		
				播種後～小麦2葉期、スズメノテッポウ発生始期まで				
		ヤエムグラ		播種後出芽前、ヤエムグラ発生前	500mL 散布水量100L			
				小麦1～2葉期、ヤエムグラ発生始期	400～500mL 散布水量100L			

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容			
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意		
12. SYJ-227細粒 プロスルホカルブ 7%、 リニユロン 1.75% [シンジエンタ ジャパン]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	3~4kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	*SLI抵抗性、ジントロアニリン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効	・カズノグサ、抵抗性 スズメノテッポウ、キエム ダラに対する効果の 確認 ・3kg処理での抵抗 性スズメノテッポウにお ける効果の確認 ・カズノグサに対する 効果の年次変動の 確認		
		カズノグサ			4kg						
		*抵抗性スズメノテッポウ			3~4kg						
		キエムダラ									
13. SYJ-256 乳 新規化合物A:5% (W/V) [シンジエンタ ジャパン]	継							・効果、葉害の確認 (東北以南)			
14. トリフルリン乳 トリフルリン 44.5% [タウ・ケミカル 日本]	実・継	一年生雑草(ツクサ、 カヤツクサ、キ ク、アブラナ科 雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200~ 300mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	・中耕培土後小麦生育期 処理は、播種後の土壌処 理剤との体系で使用す る。	・カズノグサに対する 効果の変動要因の 確認 ・小麦生育期(前処 理剤との体系)によ る効果、葉害の確認		
		一年生イネ科雑草								播種後~小麦3葉期、イネ科雑草1葉期まで	北海道
		一年生イネ科雑草、 カズノグサ								小麦生育期、 中耕培土後 雑草発生前	東北以南

A. 除草剤 (2) 大麦

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. BCH-109 細粒 ジフルフェニカン:0.2% フルフェナセト:0.6% [ハ・イエルクローブサイエンス]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後~ 大麦出芽前、 雑草発生前 期まで大麦2 葉期、イネ科 雑草1葉期ま で	4kg~5kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・葉に白斑や黄化、褐変を 生じる場合がある	・抵抗性スズメノテッポウ に対する効果の確認 ・大麦1~2葉期で の効果の確認
2. KUH-112 乳 ビロキサスロン0.88% ベンチオカーブ57.7% リニユロン:10.5% [クマイ化学工業]	継								・効果、葉害の確認 (東北以南)
3. KUH-112 細粒F ビロキサスロン0.1% ベンチオカーブ6.6% リニユロン:1.2% [クマイ化学工業]	継								・効果、葉害の確認 (東北以南)
4. MBH-075 乳 プロスルホカルブ 46% リニユロン 11.5% [丸和ハイオケミカル]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	400~ 600mL 散布水量 25~100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・黄化、生育抑制を生じる 場合がある ・少量散布(25~ 50L/10a)の場合は専用ノ ズルを使用する。	・散布水量25~ 50L/10aでの年次 変動の確認

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
5.MBH-127フロアブル 既知化合物A:16% 既知化合物B:9.4% (W/V) [丸和ハイオケミカル]	継								・効果、葉害の確認 (東北以南)
6.NH-007フロアブル グリホサートイソプロピルアミン塩30% ピラフルフェンエチル0.16% [日本農薬]	継								・効果、葉害の確認 (東北以南)
7.SYJ-227細粒 プロスルホカルブ 7%、 リュエロン 1.75% [シンジエンタ ジャパン]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	3~4kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南		・カスノコグサ、抵抗性 スズメノテッポウに対する 効果の確認
		カスノコグサ							
8.SYJ-256 乳 新規化合物A:5% (W/V) [シンジエンタジャパン]	継								・効果、葉害の確認 (東北以南)

A.除草剤 (3)水稲刈跡

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. AH-01液 グルホシネートPナトリウム 塩:11.5% [*Meiji Seika ファルマ、 北興化学工業]	継								・効果、葉害の確認 (東北以南)
2.SBH-207 (旧NHS-50) 粒 塩素酸ナトリウム:50% [エス・ディー・エス バイオ テック]	実・継	一年生雑草、多年生 イネ科雑草、マツバイ	土壌	水稲刈取後 雑草生育期	20~25kg	全土壌	東北以南		・多年生イネ科雑草 に対する薬量と効果の 確認 ・20kg/10a処理での オモダカに対する 当年の効果、および 翌年の発生量低減 効果の確認 ・30~40kg/10aでの オモダカに対する 年次変動の確認
		オモダカ		水稲刈取後 10日以内、 雑草生育期	30~40kg				

B.生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1.BAW-0907液 カルメコート 65.6% [BASFジャパン]	実・継 実	秋播き小麦 節間伸長抑制による 倒伏軽減	茎葉	幼穂形成期 出穂前20~ 10日(草丈40 ~60cm)	150~ 200mL 散布水量 100L 200~ 300mL 散布水量 100L	全土壌	北海道		・幼穂形成期での 効果、葉害の確認 (北海道)